

第6学年 社会科学学習指導案

ろ組 男子 16 名 女子 17 名 計 33 名
指導者 上 江 洲 洋 志

1 小単元 わたしたちのくらしと政治

2 小単元について

(1) 単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに、日本国憲法の基本的な考え方や、国会、内閣、裁判所の役割と国民との関わりを調べることを通して、日本国憲法が、国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づき、司法、立法、行政の三権がそれぞれの役割を果たしながら行われているという我が国の政治の仕組みを捉えてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、自分たちの住む地域の政治の働きに関心をもち始めている。

そこで、本小単元では、**政策の内容や実施の過程、法令や予算とのかかわりに着目して政治の取組を捉え、市民生活と関連付けながら政治の働きを粘り強く追究する活動**を通して、地方公共団体の政治は、国民主権の考え方のもと、市民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを捉えさせようとするものである。また、表やグラフなどの資料を基に適切に調べまとめる技能や、市民生活における政治の働きを考え表現する力、よりよい政治の在り方や自己の政治へのかかわり方を選択・判断する力を高めようとするものである。

このような学習は、グローバル化する世界と日本の役割について追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

鹿児島市は、機能的で魅力あふれる都市を形成していくため、「鹿児島市総合計画」を策定し、総合的かつ計画的なまちづくりを進めている。その中で、鹿児島駅周辺地区は、天文館地区、鹿児島中央駅地区とともに都市拠点としての整備が進められており、その一環として、平成 28 年に鹿児島駅隣に公園、屋外イベント施設「かんまちあ」を開園させた。この事業において、鹿児島市は、平成 17 年から住民や有識者との意見交換会を開催したり、市の財源の他に国庫補助金を活用した予算を組んだりしながら具体的な整備計画を立て、議会での審議を重ねてきた。「かんまちあ」は、現在多くの市民の運動や憩いの場となっているだけでなく、鹿児島駅周辺地区住民にとって、低下している地域の活力を取り戻すきっかけとなり得る施設として期待されている。

そこで、ここでは、市民生活における政治の働きを具体的な事例を基に考えることができるようにするために、鹿児島駅周辺の整備事業を取り上げていく。その際、**完成までの過程や予算との関連に着目し、その役割を考えることができるように学習を展開するとともに**、学習したことを生かして、鹿児島市街地の今後の開発について考え、提案する活動を位置付けていくことが大切である。

そのために、まず、開発前後の鹿児島駅周辺の様子に関する資料や、公園建設に要した期間や費用に関する資料から地域住民の願いを予想させたり、多くの時間と費用を要したことを捉えさせたりする。そして、これらの活動を通して生じた疑問を基に学習問題を設定させる。次に、一人一人の予想を基に、「**開発の過程**」「**開発に関する費用**」を追究の柱とし、表やグラフ、絵図や写真といった各種資料を活用して市役所や議会の取組を調べさせるとともに、グループや全体で、「かんまちあ」建設を通じた、市役所や市議会の市民生活に果たす役割について話し合わせる。そして、追究の結果分かった鹿児島駅周辺の整備に関する鹿児島市の政治の働きや、鹿児島市民のくらしとの関連について新聞にまとめさせるとともに、鹿児島市の他の地域の開発の方向性について考え、提案させる。

これらの学習は、我が国の政治の考え方と仕組みや働きを理解するとともに、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を高め、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養うことにつながる。

(3) 子どもの実態(調査人数 32 人、質問紙法、主な項及び回答のみ記述)

項目 1 鹿児島市の政治について調べたいこと ※複数回答 政策(24) 仕組み(21) 税金(18) 交通(6)
項目 2 公共施設建設に関する政治の働きについて ※複数回答 ○建設計画…市役所(16), 市役所と住民(9), 市長(3), その他(5) ○建設決定…議会(16), 市長(10), その他(3) 無回答(4) ○建設費用…市(16), 県, 国(5), 住民(5), その他(9)
項目 3 資料活用 of 技能について ○円グラフの読取 表題(31), 最大/最小値(32), 数値(32) ○関係図の読取 できる(24) できない(9)
項目 4 思考の方法について ○比較: できる(33), できない(0) ○関連付け: できる(29), できない(4)

小単元の学習で調べていきたいことについては、福祉などの政策や、政策を実現のための仕組みに関心をもつ子どもが多い(項目 1)。これは、これまでの、国の政治の仕組みに関する学習や、鹿児島市の公共事業及び、県内自治体の地域資源を生かした特色ある町づくりの学習経験に起因すると考えられる。身近な公共施設建設に関する政治の働きについて、市役所や市議会に取り組んでいることや、それぞれの機関の役割を十分に捉えることができていない子どもは多くない(項目 2「建設計画」及び「建設決定」)。これは、公共の施設が新たに建設されたというニ

ュースを見聞きしたり、実際に施設を利用したりした経験はあるものの、それらの施設が建設された背景や建設された経過を意識してニュースを見聞きしたり施設を利用したりすることがないためであると考えられる。また、これまでに学習した国の政治の仕組みと、身近な市の政治の仕組みをつなげて考えることができていないことも原因であると考えられる。さらに、政治にかかる費用が、市民が納める税金によって賄われていることは漠然とした理解にとどまっている。これは、予算の具体的な活用場面や、費用に関する国と地方公共団体の協力の面から捉える機会がないためであると考えられる。(項目 2「建設費用」)。資料活用 of 技能については、グラフに示されていることを、自分なりの観点をもって読み取ることや関係図を読み取ることができる子どもは多い(項目 3)。また、資料に表されている事柄同士を比較したり、市民生活と関連付けたりするといった方法を用いて思考することができる子どもは多い(項目 4)。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、国民生活における政治の働きを具体的に考えることができるようにするために、「かんまちあ」の建設の過程や、過程にかかわる人々相互の関係について追究していくことが明確に意識できる小単元の学習問題を設定するとともに、「かんまちあ」の建設に関する鹿児島市の政治の働きを、市民生活と関連付けながら追究していくことができるようにしていく。そのために、次のようなことに留意したい。

ア まず、鹿児島市の政治の働きや、自分たちのくらしとの関連を調べていくことについての問題意識をもたせるために、鹿児島駅周辺の開発前後の様子を比較させ、違いを話し合う活動を設定する。その際、開発直前の衰退した状況から地域住民の願いを予想させたり、「かんまちあ」建設に要した期間や費用の概要に関する資料を分析させ、多くの時間と費用を要したことを捉えさせたりする。そして、予想した市民の願いや公園建設に関する疑問をもとに、「『かんまちあ』は、だれが、どのようにして作ったのだろうか。」という小単元の学習問題を設定させる。

イ 追究にあたっては、「建設の過程」及び「建設の費用」の観点から追究させていく。「建設の過程」については、市議会、市役所それぞれの取組に着目させ、市民の願いと関連付けながらそれぞれの役割を捉えさせていく。「建設のための費用」については、予算の内訳を基に、国からの補助金といった財源に着目させ、国の政治と地方自治との関係を考えさせるとともに、税金の仕組みや役割を、市民生活と関連付けながら捉えさせていく。

ウ 単元の終末に、公園建設にかかわる市の政治の働きについて新聞にまとめさせる。その際、期限付きで建設、開館している「せごどん大河ドラマ館」の期限後の跡地利用の在り方について提案させることで、学習成果を基にこれからの鹿児島市の発展について考えようとする態度の育成につなげていく。

3 目 標

- (1) ・ 鹿児島市の政治は、市民の願いを取り入れながら進められ、市民の生活の安定と向上につながっていることを捉えることができる。
- ・ 鹿児島市の政治の働きや市民の暮らしとのかかわりについて、鹿児島駅周辺の開発事業実現に関する表やグラフ、写真などの資料を活用して必要な情報を集めるとともに、調べて明確になったことをまとめることができる。
- (2) 鹿児島市の政治の働きや市民の暮らしとのかかわりについて、鹿児島駅周辺の開発事業にかかわる様々な人や機関の関連、市民生活の安定や向上との関連について、調べ、考えたことを説明することができるとともに、今後の鹿児島市の市街地開発の在り方について構想したことを説明することができる。
- (3) 鹿児島市の政治の働きに関心をもち、鹿児島駅周辺の開発事業実現の過程を自らの学びを振り返りながら粘り強く調べることができる。

4 指導計画(全8時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる ② 調べる ③ まとめる・広げる	1 鹿児島駅周辺の開発前後の様子や、開発に要した期間、費用を基に学習問題を設定する。 『かんまちあ』は、どのようにして作られたのだろうか。	「公園や、屋根つきの広場があるよ。」 「みんな、とても楽しそうに利用しているね。」	㊟ 写真(「かんまちあ」を利用する人の様子、「かんまちあ」オープン前後の鹿児島駅周辺の様子)
	2 互いの疑問や関心を基に、調べる内容や方法を話し合い、追究の計画を立てる。 [調べる内容：追究の柱] ○ 建設の過程 ○ 建設の費用	「長い期間と、たくさんのお金をかけて作られた施設のようだよ。」 「このような施設を、どうやって作ったのかな、調べてみたいな。」	㊟ 表(建設に要した期間と費用総額) ○ 市の政治の働きや、自分たちの暮らしとの関連を調べていくことについての問題意識をもたせるために、「かんまちあ」オープン前後の鹿児島駅周辺の様子を比較させ、にぎわいの様子の違いを捉えさせ、地域のにぎわいを望む市民の願いを類推させる。また、工事に要した期間や費用を基に、施設建設に関する疑問を話し合わせ、学習問題を設定させる。
	3 資料を基に一人調べを行う。 4 建設の過程について話し合う。 (本時) 【建設の様子】 【市役所】 ・ 計画作成 ・ 市民との話し合い 【市議会】 ・ 計画審議 ・ 市民の話を聞く 市民の思いや願い ↓ 市民の意見も取り入れ、繰り返し話し合いながら建設された。	「平成16年頃から計画して、建設は平成27年に始まっているよ。この間には何があったのかな。」 「公園を作ることや、どんな公園にするかということはどうやって決まっていたのかな。」 「市役所では市民と話し合いながら計画したようだよ。」 「計画を基にして、議会で話し合っていて決定したようだよ。」	㊟ 文書(地域住民からの提言書、市議会議事録、土地利用計画書) ㊟ 写真(議会の様子、市民との話し合いの様子) ○ 鹿児島市の政治の働きを捉えさせるために、「かんまちあ」の建設の過程を調べさせる。その際、資料を作成した人や資料の提出先、話し合いに参加している人に着目させ、「市役所」「議会」それぞれの取組と関係を話し合わせるとともに、取組を「市民」の願いと関連付けてそれぞれの役割を捉えさせる。
	5 建設のための費用をどのように賄ったかについて話し合う。 【建設の費用】 国・県からの補助金 市民や企業が納める税金 事業のための借りるお金 皆から集めた大切なお金 ↓ 皆のために、計画的に使う	「でも、これだけの施設を作るのに、相当なお金が必要だったはずだよ。その費用はどうしたのかな。」 「鹿児島市だけでなく、県や国からの補助も受けたようだよ。」 「それらのお金はみんなが納める税金が基になっているんだね。」	㊟ グラフ(建設費用財源の内訳、鹿児島市予算の内訳) ㊟ 写真(鹿児島市の公共施設) ○ 鹿児島市の政治が、国の政治と関連をもって行われていることを捉えさせるために、「かんまちあ」建設の費用の内訳に着目させ、市の財源の他に国からの補助を受けているという事実と関連付けて話し合わせる。また、市の予算の内訳を提示することで、限られた予算を有効に使うために慎重な審議が議会においてなされていることを捉えさせる。
	6 調べ、話し合ったことを基にこれまでの学習をまとめる。 「かんまちあ」は、鹿児島市役所が市民と話し合いを重ねながら立てた計画を鹿児島市議会で話し合い、税金を費用として、国の補助も受けて作られた。	「皆が納める税金が、皆の暮らしのために大切に使われているんだね。」 「市民の要望を基に、市役所や議会が関係し合って、国の協力ももらいながら作られた施設なんだね。その予算は税金が使われているんだね。」	○ 追究してきたことを基に学習問題に対するまとめを話し合わせるとともに、明らかになった鹿児島市の政治の働きを新聞にまとめさせる。その際、学習成果を基にこれからの鹿児島市の発展について考えようとする態度の育成につなげていくために、「せごどん大河ドラマ館」閉館後の跡地利用について提案する記事を位置付けさせる。
	7 追究してきたことを新聞にまとめ、交流し合うとともに、まちづくりについての自分なりの提案を行う。	「学習したことを基に、「せごどん大河ドラマ館」の営業が終わった後のこの土地の利用の在り方を自分なりに考えて提案してみよう。」	

5 本 時（4／8）

(1) 目 標

市役所や議会の取組の視点から「かんまちあ」建設の過程を調べ、市民の願いと関連付けながら鹿児島市の政治の働きについて粘り強く話し合う活動を通して、鹿児島市では、市役所や議会が相互に関連し合って、市民の暮らしをよりよくしていくための政治を行っていることを説明することができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、鹿児島市の政治の働きについて捉えることができるように、「かんまちあ」建設の過程にかかわった市役所や議会の取組を調べることを通してそれぞれの役割を追究することができる学習問題を設定する。また、追究過程において、市役所や市議会の取組と市民の思いや願いとを関連付け、「かんまちあ」の建設に市民の思いが活かされていることや、建設によって市民の生活が向上していることを考えさせる活動を設定する。

(3) 実 際

学習過程	主 な 学 習 活 動	時間	教 師 の 具 体 的 な 働 き か け
具 体 化 問 題 の 追 究 計 画	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 「かんまちあ」は、どのようにして作られることになったのだろうか。	(分) 8	㊟ 写真（「かんまちあ」建設前後の鹿児島駅周辺の様子） ㊟ 略年表（「かんまちあ」開園までの経過） ○ 追究問題を焦点化するために、略年表からでは分からない「建設の計画」「建設の決定」等に関する疑問を話し合わせる。
追 究 問 題 の 究 明	2 予想を基に、追究の視点と方法について話し合う。 <予想> 市役所の人や議員が決めた→市役所、議会の取組 <追究の視点> 市民と話し合って決めた →それぞれの関係性 3 「かんまちあ」の建設が決定するまでの過程を調べる。 (1) 市役所や議会の取組に着目して話し合う。 (2) 市役所や市議会の役割について、市民の願いと関連付けて話し合う。 	30	○ 追究の視点をもたせるために、追究問題に対する予想を話し合わせる。その際、それぞれの予想に対して「〇〇は関係ないのですね。」と問い返すことで、市役所、議会、市民相互の関係を考えていくことへの必要感をもたせる。 ㊟ 文書（土地利用検討委員名簿、土地利用基本計画） ㊟ 写真（まちづくりワークショップの様子） ○ 鹿児島市役所の取組を捉えさせるために、建設に関する諸資料の作成者や会合の主催者、参加者に着目して調べさせる。その際、「なぜ、この地域とは関係のない大学の先生が参加しているのだろうか。」と問うことで、市役所が多様な視点をもって取り組んでいることを捉えさせる。 ㊟ 文書（鹿児島市議会議事録、鹿児島市議会への提出資料） ㊟ 写真（鹿児島市議会の様子） ○ 鹿児島市議会の取組を捉えさせるために、議事の内容に着目して調べた事実を議会の役割と関連付けて話し合わせる。その際、資料の作成者と提出先、議会の質問者、答弁者に着目させて話し合わせることで、「計画、実施」する市役所と「話し合い、決定する」議会の関係を捉えさせる（①）。 ○ 市の政治の働きを捉えさせるために、鹿児島市役所や鹿児島市議会の取組を、市民の思いや願いと関連付けて話し合わせる。
ま と め	4 本時の学習についてまとめる 市民の願いをかなえるために、市役所が市民と話し合いながら立てた計画を、議会で検討して作られることになった。 5 次時の学習について話し合う。 ○ 建設にかかる費用は、どのようにして準備したのか。	7	○ 市の政治の働きを捉えさせるために、鹿児島市役所や鹿児島市議会の取組を、市民の思いや願いと関連付けて話し合わせる。その際、提出した提言書やパブリックコメントと実際の施設とを比較して共通点を話し合わせる。また、公園利用者の思いや、地域住民の思いを類推させ、その妥当性をVTRで確認させることで、市の政治が、よりよい市民生活につながっていることを捉えさせる（②）。 ○ 追究問題に対する自分の考えを吟味させるために、キーワードを観点として、自分なりに考えた本時のまとめを互いに交流させ、付加、修正させる。

